

2021年11月発行

大学の就職・キャリア支援活動に関する調査

長期化するコロナ禍の影響を受けながら進化した2022年卒者の就職戦線。大学の授業や就職活動のオンラインなど、様々な変化に対応するために、大学ではよりきめ細やかな支援が模索されている。そんな中、就職支援の現場ではどのような課題をもち、対策に取り組んでいるのだろうか。

ディスコでは、全国の大学の就職課・キャリアセンターを対象に、2022年卒者の就職活動状況、2023年卒者への就職支援、インターンシップ等への意見など、多岐にわたる項目を調査し分析した。

【主な調査内容】

- | | | |
|---------------------------|------------------------|-------------|
| 1. 2022年卒者の就職活動状況 | _____ | P 2 |
| [1] 内定状況 | [4] 新卒採用市場の見方 | |
| [2] 3年次ガイダンス中止・延期の影響 | [5] 学生からの相談 | |
| [3] 求人状況の変化 | [6] コロナ禍における就職支援の課題 | |
| 2. 2023年卒者への就職支援 | _____ | P 6 |
| [1] 就職ガイダンスの実施状況 | [4] 業界研究・企業研究セミナーの実施状況 | |
| [2] 就職ガイダンスの実施形式 | [5] 企業からのアプローチ | |
| [3] 就職ガイダンスの実施テーマ | [6] 学生の就職意識に対する所見 | |
| 3. インターンシップ等のプログラム | _____ | P 10 |
| [1] インターンシップ等の求人状況 | [3] インターンシップ等に対する見解 | |
| [2] 学生の参加状況 | | |
| 4. 低学年向けキャリア支援 | _____ | P 12 |
| [1] 実施状況 | [2] 実施内容 | |

《調査概要》

調査対象：全国の大学の就職・キャリア支援担当部署
 調査方法：インターネット調査法
 調査期間：2021年9月1日～9月25日
 回答学校数：482校

国公立	私立	合計
118校	364校	482校

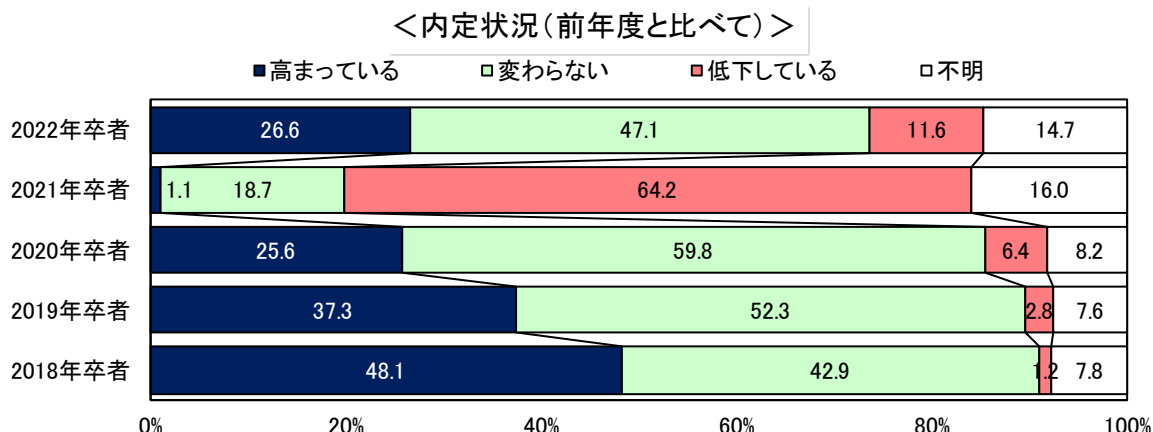
*「大学3年生」は6年制の5年生と修士1年生を含みます。
 「大学4年生」は6年制の6年生と修士2年生を含みます。

北海道・東北	関東	中部	関西	中国・四国	九州・沖縄	合計
51校	186校	79校	83校	42校	41校	482校

1. 2022年卒者の就職活動状況

[1] 内定状況

まず、2022年卒者（現4年生）の内定状況について確認したい。前年度と比べて「高まっている」と回答した大学は2割強（26.6%）で、「低下している」（11.6%）を上回る。前年はコロナ禍の影響で急速に低下したが、今年は企業の採用意欲に回復基調が見られ、内定状況の改善を実感している大学も少なくない。



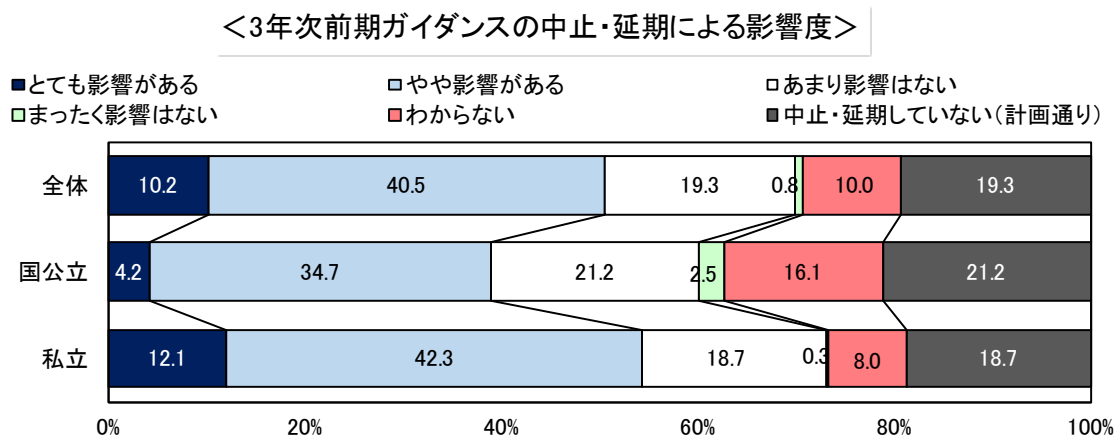
○9月時点での内定状況は昨年度より向上しているが、例年に比べると、やや低下している。 <公立大学>

○昨年よりも早い段階で内定者が出ていたが、夏場に入り失速。8月時点で昨年並みに落ち着いている。

<私立大学>

[2] 3年次ガイダンス中止・延期の影響

新型コロナ感染の急速な拡大を受け、多くの大学で、3年次前期（2020年春期）の就職ガイダンスの中止や延期を余儀なくされた。そのことが、その後の就職活動にどの程度影響しているかを尋ねたところ、「影響がある」と回答した大学は半数に上る（計50.7%）。ガイダンスの中止・延期が、就職活動への取り組みの遅れにつながり、結果的に内定状況に影響したと感ずる大学が多いようだ。



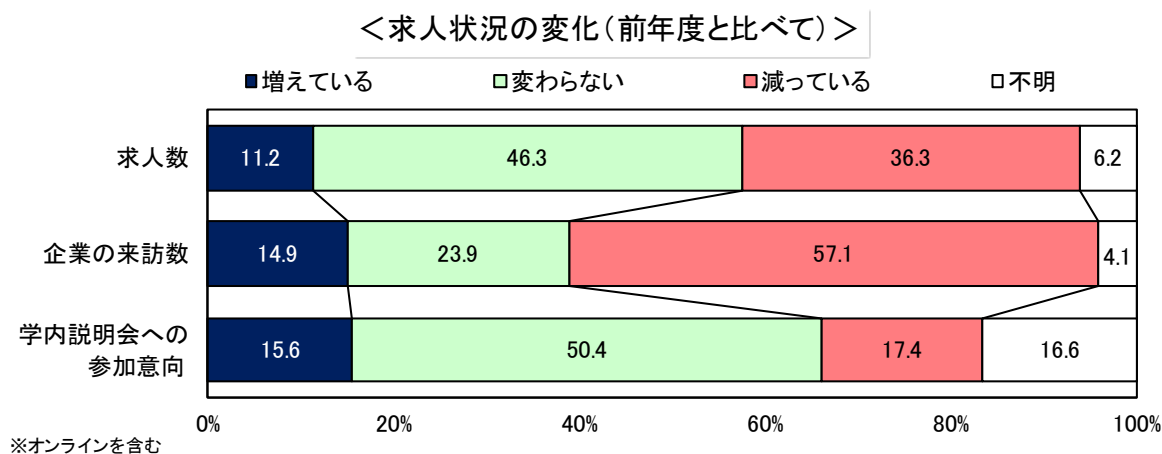
○うまくスタートを切れなかった学生がおり、その影響が後半まで続いたように見受けられる。 <私立大学>

○自分で動ける学生に変化はないが、中堅層以下の学生のスタートが遅れたと感じます。

<私立大学>

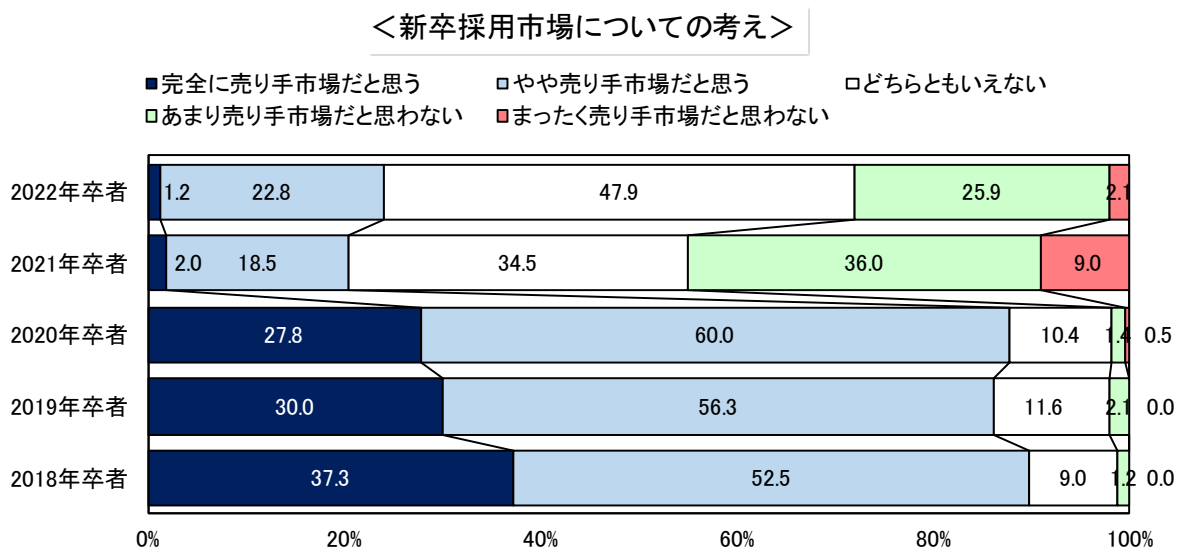
[3] 求人状況の変化

2022年卒者の求人状況に関し、前年度からの変化を尋ねた。求人数は「減っている」(36.3%)が「増えている」(11.2%)を大きく上回る。企業の来訪数は、オンラインを含めて回答してもらったが、約6割の大学が「減っている」と回答した(57.1%)。大都市圏を中心に大学への入構制限などもあり、長期化するコロナ禍において、大学との接点の持ち方に難しさを感じている企業も一定数ありそうだ。



[4] 新卒採用市場の見方

就職・キャリア支援担当者として、採用市場をどのように見ているかを尋ねた。学生に優位な「売り手市場」との見方が2割強(計24.0%)に対し、「売り手市場だと思わない」は3割弱(計28.0%)で、「売り手市場ではない」との見方がやや上回る。前年は、「売り手市場ではない」が4割を超えていたが(計45.0%)、今年は大幅に減少した。ただし、コロナ前は「売り手市場」が9割近かったのと比較すると、採用環境は依然として厳しい状況と捉えている大学が多いことがわかる。

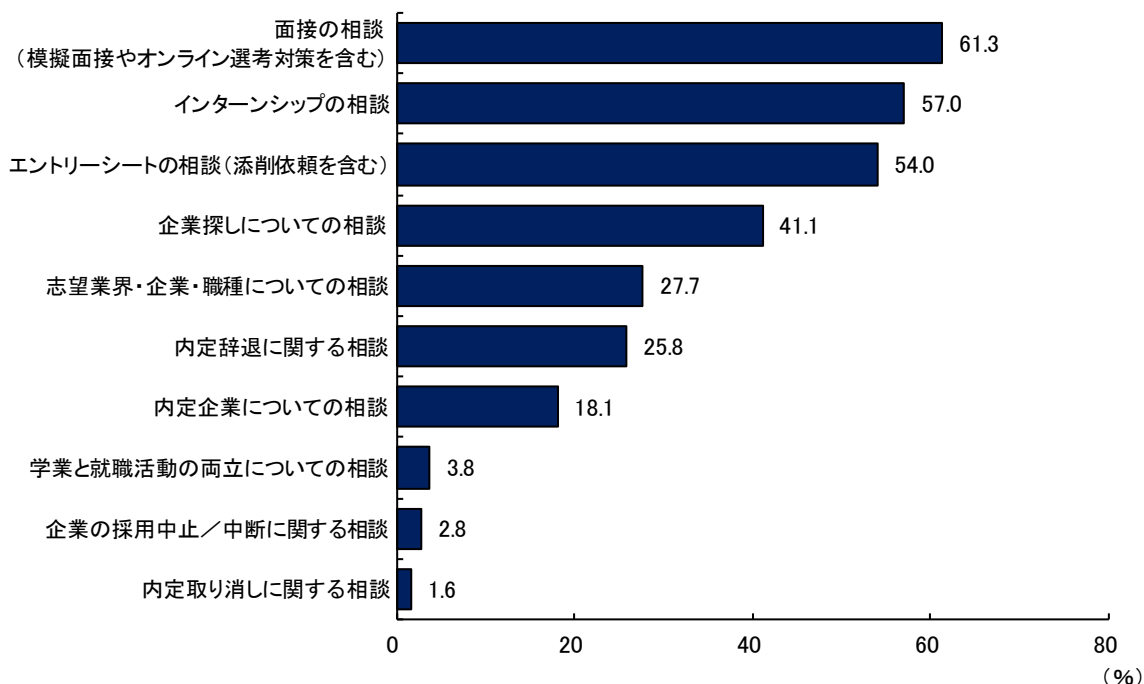


【5】学生からの相談

学生からの相談について、前年度より増えたものを尋ねた。最も多いのは「面接の相談」(61.3%)。従来の面接対策に加え、オンライン面接に関する相談が増加した大学が多かったようだ。

ここに「インターンシップの相談」(57.0%)、「エントリーシートの相談」(54.0%)が続く。また、「内定辞退に関する相談」は4校に1校が増えたと回答(25.8%)。内定状況は依然として厳しい一方で、複数社から内定を得て選択に困る学生もおり、二極化が進行したことがうかがえる。

＜学生からの相談で前年度より増えた内容＞



■学生からの相談内容の特徴や変化

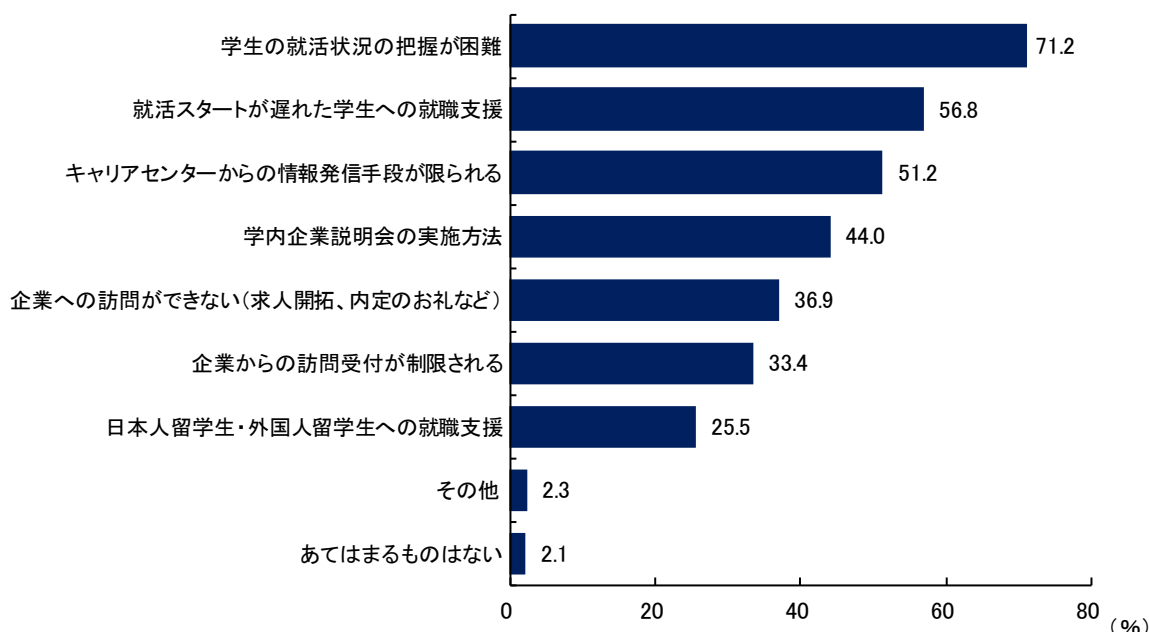
- 対面とオンラインの対策をしなければいけないため、模擬面接の相談が増加した。 <私立大学>
- 面接の受け答えだけでなく、IT環境、オンライン面接でのマナーなど多方面にわたる相談が多かった。 <私立大学>
- インターンシップについて情報を多く提供したこともあり、インターンシップ内容・参加すべき企業などの相談が増えています。 <私立大学>
- インターンシップ等が中止になったことにより、何を基準に応募先を決めたら良いのか、応募先に迷っているという相談。 <公立大学>
- エントリーシートに関する相談が毎月多く、就職活動が長期化していると感じられる。 <公立大学>
- コロナによる活動の制限やオンラインによる活動により、企業研究を深めることが難しいという相談が多い。 <私立大学>
- 複数企業から内定を得ている学生も多く、選択に困っている学生の相談が増えている。 <私立大学>
- 企業の探し方については、コロナの影響もあり、今後どのような業界が伸びるのか、どのように探していけば良いかという相談が増加。 <私立大学>
- 就職活動の仕方（企業の探し方等）が多かった。学生間の情報交換が減っているのではないかと考える。 <私立大学>

[6] コロナ禍における就職支援の課題

コロナ禍で就職支援をする上で、課題に感じていることを尋ねた。「学生の就活状況の把握が困難」が約7割で最多（71.2%）。コロナ禍の影響を大きく受けた前年に引き続き、学生と直接対面する機会が減少したり、ほとんどなくなったりしたことで、学生の就職活動の進行状況を把握しきれないケースが多いことがうかがえる。「キャリアセンターからの情報発信手段が限られる」も過半数が選び（51.2%）、学生との接点に課題を感じる大学が多いことがわかる。

2番目の「就活スタートが遅れた学生への就職支援」は、半数強の大学が選んだ（56.8%）。先に見たように、昨年度、3年次前期のガイダンスが中止・延期されたことで、一定数の学生が就職活動に出遅れたことに危機感をもつ大学も少なくない。

＜コロナ禍における、2022卒者の就職支援の課題＞



■コロナ禍の就職支援において課題に感じていること

- 学生との接点が少なく、継続的に支援をしていくことが困難な場合が多い。 ＜私立大学＞
- 授業がオンラインになったことによって窓口の利用がなくなったため、学生の情報を得る機会が減っている。 ＜私立大学＞
- 就活が遅れている、またはまったくできていない学生の把握とフォローが困難。 ＜私立大学＞
- 学生の顔と名前が一致しない。オンラインガイダンス・セミナーばかりで学生の傾向や印象がつかみにくい。 ＜公立大学＞
- ポスター・チラシ・学生同士の口コミ等様々な情報伝達手段をとることができず、学生ポータルシステムを主とする情報発信に限られる。 ＜国立大学＞
- 企業訪問がほぼできない状態にあり、直接担当者にお会いしての求人依頼や採用状況についての情報収集・情報交換が極めて困難であること。 ＜私立大学＞

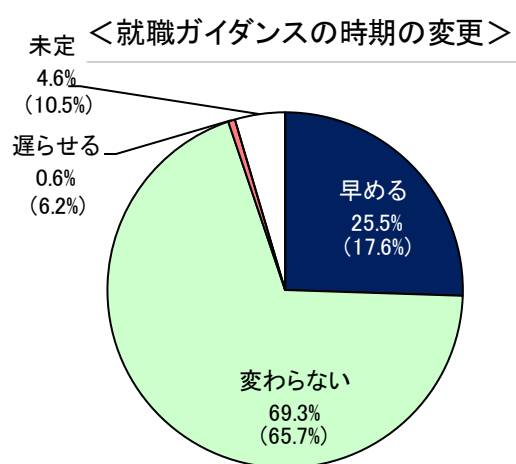
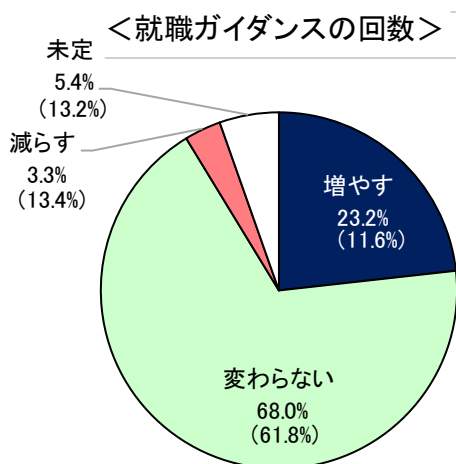
2. 2023年卒者への就職支援

[1] 就職ガイダンスの実施状況

ここからは、2023年卒者（現3年生）への就職支援についてのデータを紹介したい。

まず、就職ガイダンスの回数の増減と時期に関して尋ねた（オンライン含む）。ガイダンスの回数を「増やす」大学が23.2%で、「減らす」（3.3%）を約20ポイント上回る。

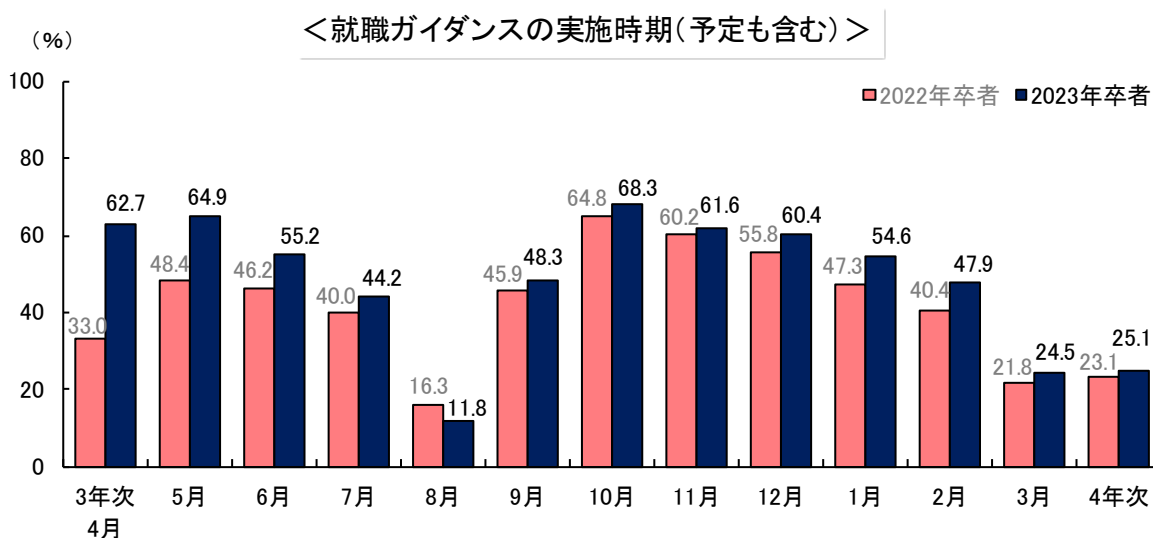
実施時期も「変わらない」が約7割を占めるが、「早める」が25.5%に上る。具体的な実施時期（予定も含む）を見ると、3年次4月と5月が前年より大幅に増加しているのが目立つ。前年は、コロナ禍の影響により、ガイダンスを中止・延期した大学も少なくなかったが、今年はオンライン化などにより、例年通り実施できた大学が多かったことが表れている。



※オンラインを含む

※（ ）内は2020年9月調査の数値

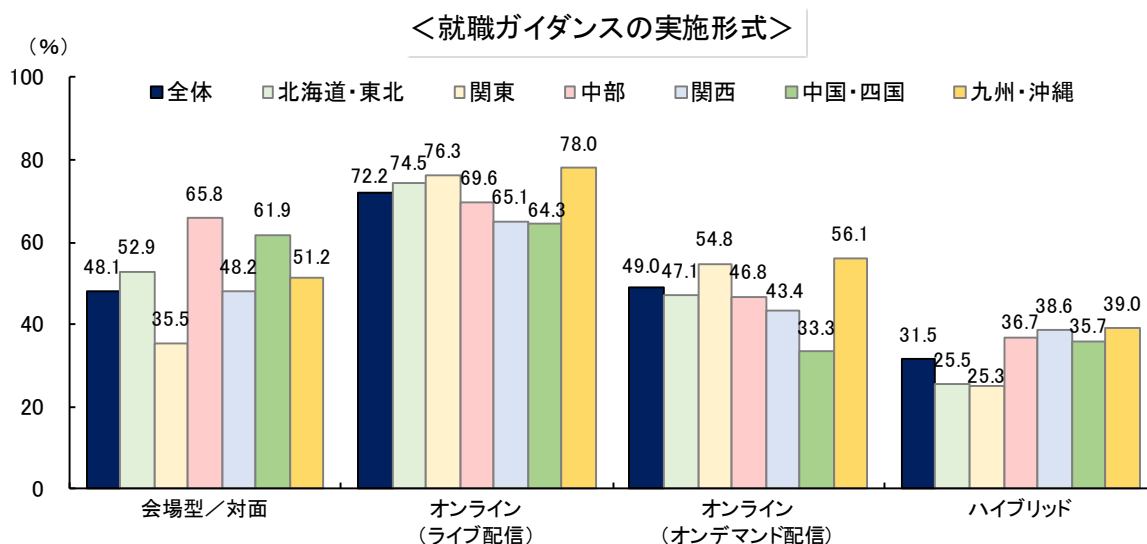
※オンラインを含む



※オンラインを含む

【2】 就職ガイダンスの実施形式

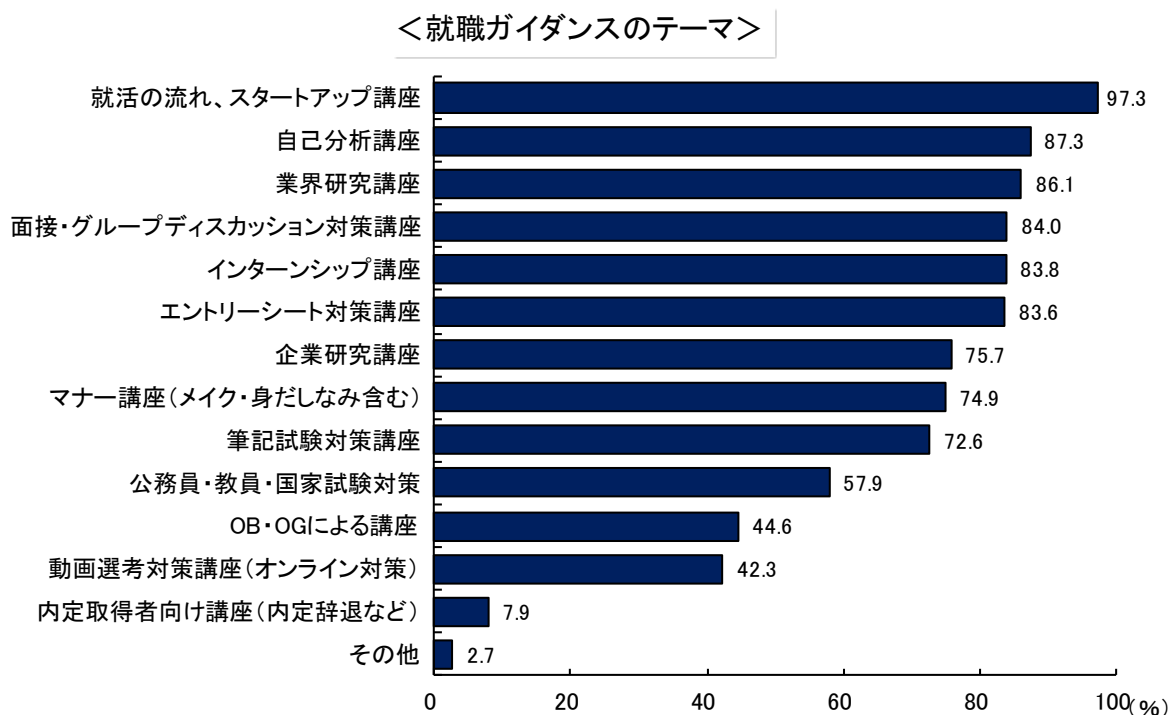
就職ガイダンスの実施形式を尋ねた。「オンライン（ライブ配信）」が7割を超え（72.2%）、「会場型／対面」（48.1%）を大きく上回る。「オンライン（オンデマンド配信）」も半数に上り（49.0%）、コロナの感染状況や学生のニーズに合わせ、様々な形式で実施していることが読み取れる。



【3】 就職ガイダンスの実施テーマ

2023年卒者を対象としたガイダンスのテーマを見ると、「就活の流れ、スタートアップ講座」から「エントリーシート対策講座」までは8割を超え、幅広い内容で実施していることがわかる。

なお、「動画選考対策講座」は4割を超えており（42.3%）、企業の選考方法の変化に即した内容のガイダンスを実施している大学が多いことがうかがえる。

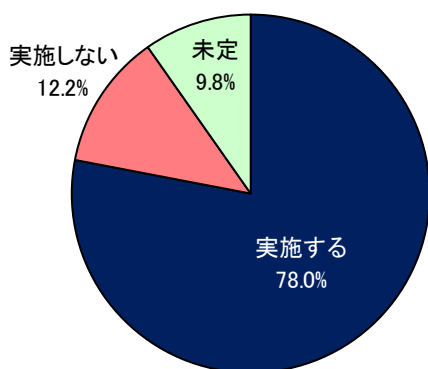


[4] 業界研究・企業研究セミナーの実施状況

採用広報解禁前の学内セミナー（業界・企業研究セミナー）の実施について尋ねたところ、「実施する」が約8割と大半を占めた（78.0%）。業界研究・企業研究セミナーを実施する大学に、実施時期（予定を含む）をすべて選んでもらったところ、採用広報解禁直前である「3年次の2月」が最も多く、約6割（61.4%）。次いで、「12月」（45.2%）、「11月」（41.0%）の順に多い。

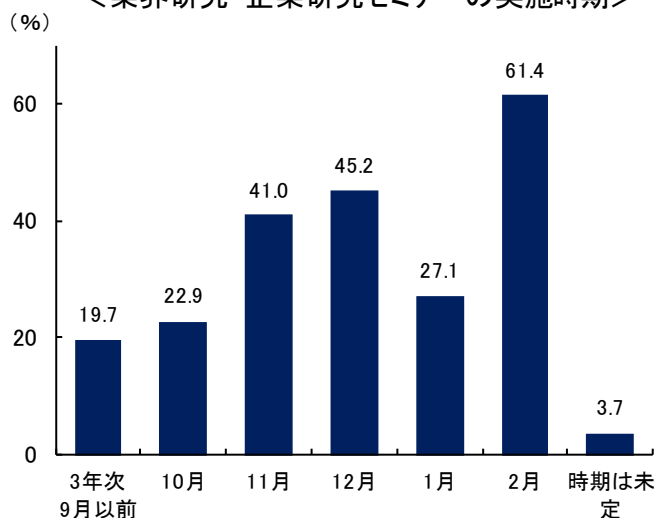
実施形式で最も多いのは、「オンライン（ライブ配信）」で6割強（65.4%）。「会場型／対面」（29.0%）の約2倍に上り、地域による差はあるものの、オンラインでの実施が主流であることがわかる。

＜3月より前の業界研究・企業研究セミナー実施状況＞



※オンラインを含む

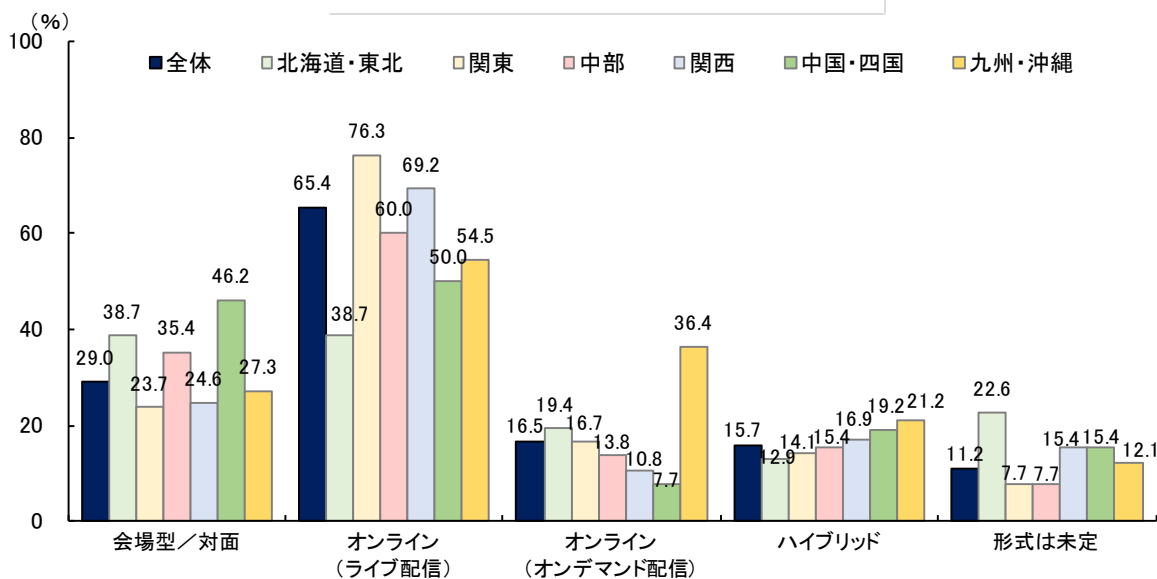
＜業界研究・企業研究セミナーの実施時期＞



※オンラインを含む

※セミナー実施予定の大学が回答

＜業界研究・企業研究セミナーの実施形式＞

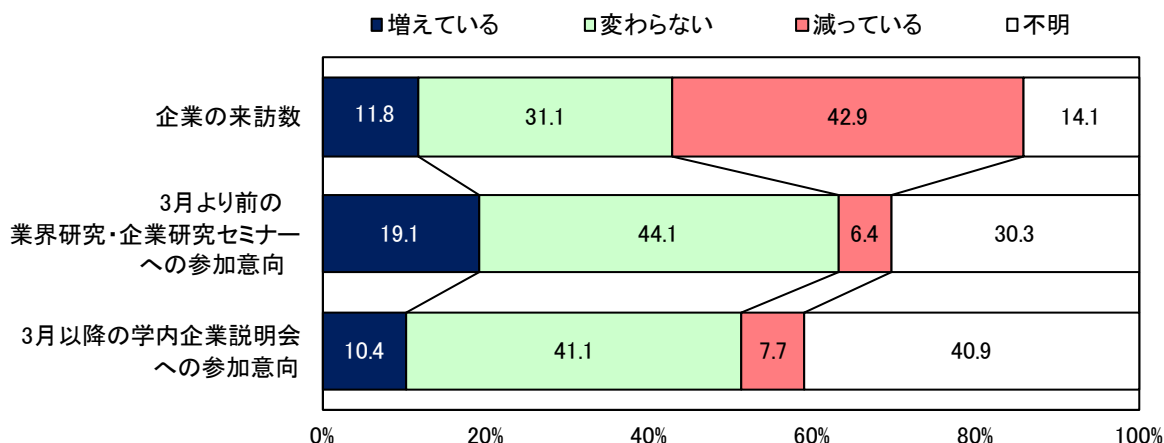


※セミナー実施予定の大学が回答

[5] 企業からのアプローチ

企業の来訪数や、大学主催の業界研究・企業研究セミナー（以下学内セミナー）、学内企業説明会への参加意向の増減について尋ねた。企業の来訪数は「減っている」が約4割（42.9%）に上る。一方で、学内セミナーや学内企業説明会への参加意向は、「増えている」が「減っている」を上回る。コロナ禍においては、オンラインであっても大学訪問を実施する企業は限定的であるものの、大学を通じて学生にアプローチしたい企業は増加傾向にあることが読み取れる。

<2023年卒者に対する企業のアプローチ(前年度と比べて)>

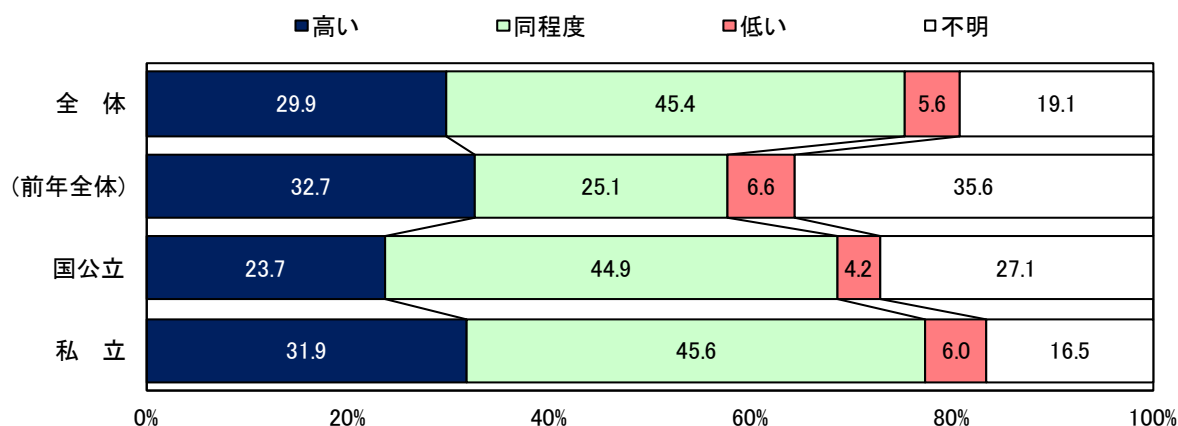


※オンラインを含む

[6] 学生の就職意識に対する所見

2023年卒者の就職に対する意識について所見を尋ねると、「高い」（29.9%）が「低い」（5.6%）を上回り、学生の意識の高さを感じとっている大学が多いようだ。寄せられたコメントからは、コロナ禍における内定獲得への不安や危機感を持ち、早期から活動する学生が増えていることなどにより、意識の高まりを感じる大学が多いことがうかがえる。

<2023年卒者の就職に対する意識(前年度と比べて)>



■ 2023年卒者の就職に対する意識が高まっていると見る理由

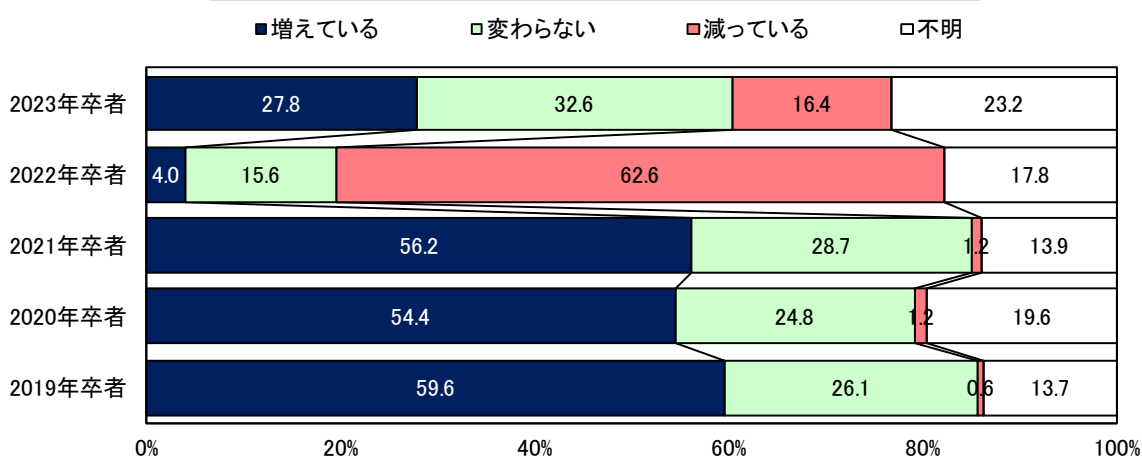
- 2021・2022年卒者がコロナ禍により苦戦する姿を見て、早期から動き出している学生が多い。 <私立大学>
- 3年次4月に開催したインターンシップガイダンスに、多くの学生（例年の3倍）が参加した。 <私立大学>
- 早期の学生相談が活発であるため。 <国立大学>

3. インターンシップ等（※）のプログラム

[1] インターンシップ等の求人状況

今年度（2021年4月～2022年3月）のインターンシップ等の求人について尋ねたところ、「増えている」（27.8%）と回答した大学が、「減っている」（16.4%）という大学を上回った。前年は、コロナ禍の影響でインターンシップ等の実施企業が減少し、「減っている」が6割を超えていたが（62.6%）、今年は増加傾向に転じた。

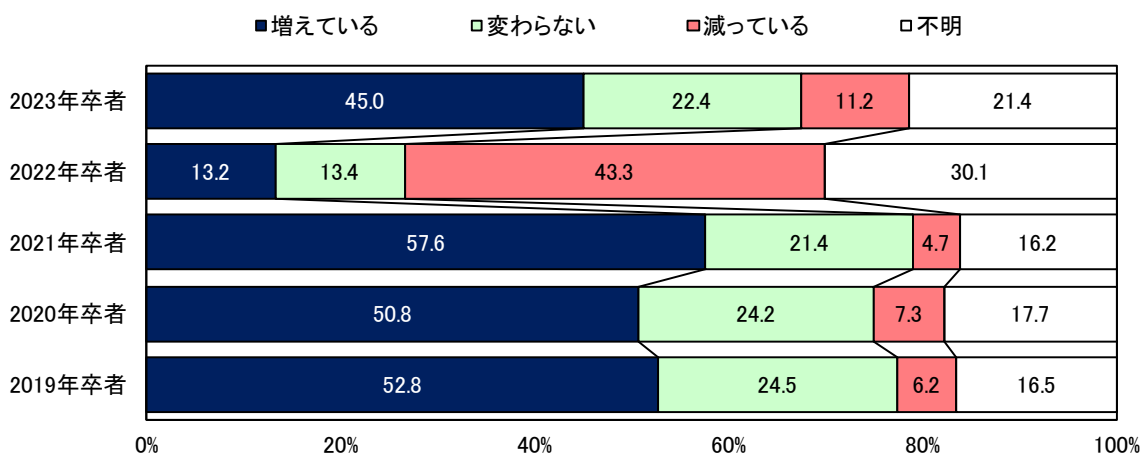
＜企業からのインターンシップ等求人状況（前年度と比べて）＞



[2] 学生の参加状況

一方、学生の参加状況はどうだろう。前年度よりも参加が「増えている」という大学が4割を超え（45.0%）、「減っている」（11.2%）を大きく上回った。インターンシップ等を実施する企業が増加したことや、前期ガイダンスへの参加を通して学生が参加意欲を高めたことなどが影響していると考えられる。

＜学生のインターンシップ等参加状況（前年度と比べて）＞



※ 「インターンシップ（就業体験を伴う複数日程のプログラム）」に限定せず、1日以内のプログラム等も含めて尋ねた

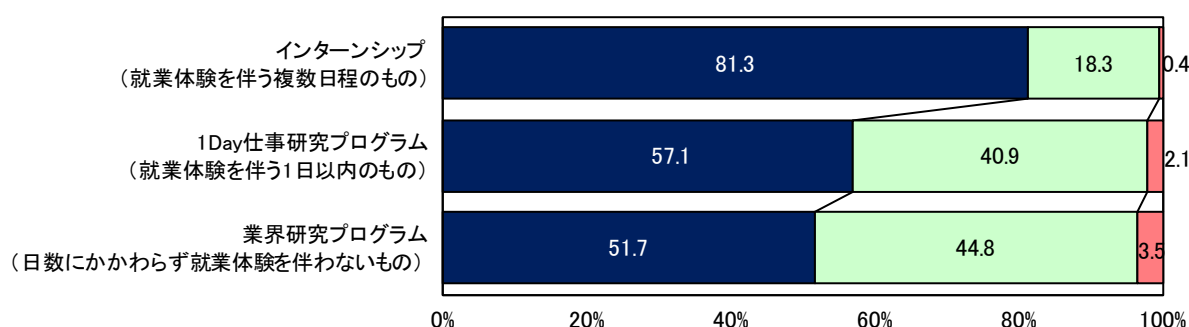
【3】インターンシップ等に対する見解

インターンシップ等のプログラムへの参加に対して、大学側がどのように捉えているかを尋ねた。就業体験を伴う複数日程のインターンシップに関しては、「積極的に参加したほうがいい」が8割を超えている（81.3%）。単日開催の1Day仕事研究プログラムや、就業体験を伴わない業界研究プログラムに関しても、「積極的に参加したほうがいい」がそれぞれ半数を超え（57.1%、51.7%）、参加を推す声は少なくない。業界研究・企業研究や職業観の涵養のために、幅広く様々な形式のプログラムに積極的に参加してもらいたいという考えが多数を占めた。

また、企業に対しては、オンライン形式も含め積極的な開催を希望する声や、低学年向けプログラムの拡充を望む声など、様々な意見が寄せられた。

＜学生のインターンシップ等のプログラムへの参加についての考え＞

■積極的に参加したほうがいい □ある程度参加したほうがいい ■参加する必要はない



※オンラインを含む

■インターンシップ等に関する意見、要望

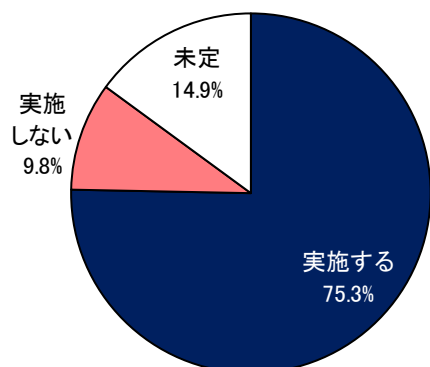
- どのような形態であっても、業界や企業研究の一環として一定の効果があると思う。 <国立大学>
- 業界、企業について深く学び、進路考察となるものについては積極的に参加をしてほしい。地方大学なので、オンラインで参加できるものも、できるだけ参加してほしい。 <私立大学>
- 1Day仕事研究プログラムも、コンパクトに企業・業界を知ることができる機会と考え、学生には参加を推奨している。 <私立大学>
- インターンシップに参加すると、イメージで考えていた目標がより明確になり、企業を知ることによって就職活動が効率良く行える。 <私立大学>
- 具体的に就労をイメージするためにも、希望とは異なる業界であっても、広く様々な業界のものに参加した方が良いと考える。 <私立大学>
- 学業に差し支えない範囲で参加するのが望ましい。 <国立大学>
- 昨今は3年次に行う単日のプログラムが主流となっているが、低学年のうちから就業体験を伴うインターンシップに積極的に参加させたい。 <私立大学>

4. 低学年向けキャリア支援

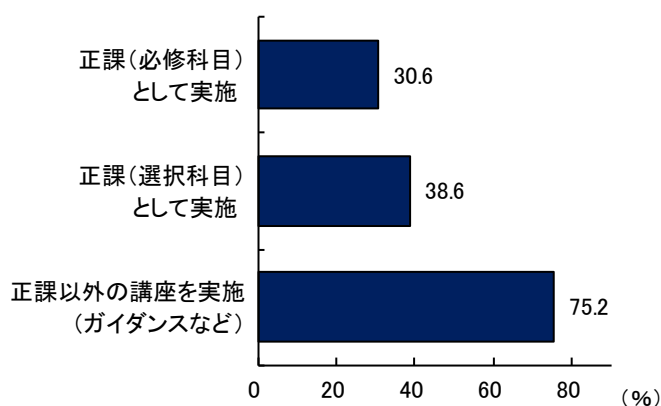
[1] 実施状況

低学年（2024年卒以降）向けの今年度のキャリア支援を「実施する」大学は7割強（75.3%）。実施形式は、ガイダンスなどの「正課以外の講座を実施」が75.2%と圧倒的に多いが、正課として実施する大学も一定数見られる（必修科目30.6%、選択科目38.6%）。

＜(24卒以降向け)今年度のキャリア支援の実施について＞



＜低学年へのキャリア支援の実施内容＞



[2] 実施内容

実施内容を学年別に尋ねたところ、ほとんどの項目で前年調査よりポイントが増加し、低学年の支援に力を入れる大学が増えている様子が見てとれる。「職業観の涵養」は1・2年生ともに8割近い大学で行われており、2年生になると「インターンシップ講座」「業界研究講座」など、就職活動を見据えた、より実践的なプログラムも多く実施している。

＜学生に対して実施している支援＞

